

令和3年度スマート農業技術実証報告会 開催要領

1 目 的

鳥取県は中山間地の水田や畑地が多く、農業の担い手の不足や高齢化が深刻な課題となっている。

近年、ロボットやICTなどの先端技術を活用したスマート農業が注目されており、担い手不足の解消や技術の継承等農業の強化につながる技術として期待されている。このため、県では令和元年度からスマート農業技術の実証に取り組んでいるところである。

そこで、これまでの実証結果報告と併せて、農林水産省が令和2年度までに実施したスマート農業実証プロジェクトのとりまとめ報告及び最新のスマート農業技術の情報を提供し、今後のスマート農業の普及に資する。

2 日 時

令和4年1月19日（水）午前10時45分から午後3時30分まで

3 開催場所

倉吉未来中心 小ホール及びアトリウム
（倉吉市駄経寺町212-5）

4 内 容

(1) スマート農業技術実証事例報告

ア ドローン空撮画像解析によるブロッコリーの収穫期予測

イ ミニトマト栽培ハウス内の環境モニタリング

ウ アシストスーツの活用

エ 水田複合経営（水稲、白ネギ、大豆、小麦）への導入技術

〔自動操舵システム、直進アシスト田植機、衛星画像診断、ドローンによる肥料散布〕
〔食味・収量コンバイン、水位センサーほか〕

オ 水稲のドローン空撮による生育診断、可変施肥ブロードキャスト

(2) 講演

スマート農業実証プロジェクトのとりまとめ報告（R1～2年度、中山間水田作）

農研機構本部企画戦略本部研究統括部 スマート農業事業推進室実証チーム

大黒正道氏

(3) ブース展示（企業による先端技術の紹介）

5 参集範囲

農業者、農業関係団体、行政・普及・試験研究・教育機関、農業機械メーカー、農業ICTベンダー等

6 新型コロナウイルス対策

(1) 参加者を把握するため、事前申込みとします。

※別添チラシ裏面の参加申込書に必要事項を記載し、令和4年1月7日（金）までに申し込んでください。

(2) 申込多数の場合は、農業者を優先に参加者を調整します。

※調整する場合は申込代表者に事前に連絡します。

(3) 発熱や咳などの風邪症状で体調が悪い場合は参加を御遠慮願います。

(4) 入場時に検温を行います。

(5) 手洗い・手指消毒の徹底をお願いします。

(6) 必ずマスクの着用をお願いします。

(7) 小ホールの定員は300名程度とし、定員を超えた場合は一時的に入場制限を行います。

(8) 小ホールの出入口を常時解放し、換気を行います。

(9) 展示ブース前（アトリウム）では隣の人と1メートル以上間隔を空けていただきます。

新型コロナウイルスの感染状況によっては、小ホールの定員を150名程度に制限、又は、開催を中止する場合があります。